

土曜

SATURDAY

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ




吉田動物病院
(射水市小島・大島)
高村 文子

7

動物に鍼灸治療や漢方薬が効くのか?と思われる人も多いかもしれませんが、最近では犬や猫などのペットへの鍼灸治療を希望する人が増えてきています。

動物も人間と同じようにツボや経絡があります。ツボは体の表面に存在する穴に例えられ、それらを結んで内臓まで張り巡らされた線路に例えられるのが経絡です。経絡には気(生体のエネルギー物質)などが流れており、その流れが滞ってしまうとさまざまな病気になると考えられています。

鍼灸治療は、ツボを鍼やお灸で刺激し、気の滞りを解消し、動物が本来持っている自然治癒力を高

増える鍼灸治療



治療のためお灸してもらおう犬

自然治癒力高める

めることによって、病気を治していきます。科学的には、ツボを刺激することで神経系が刺激され、鎮痛物質や脳内ホルモンが産生されて痛みを緩和したり、免疫力を高める作用があることが分かっています。ただし、鍼灸治療はどんな病気にも対応できませんが、救急疾患の場合は西洋医学の方がいいでしょう。

鍼は痛そうとかお灸は熱そうとか思われるかもしれませんが、鍼は人間の髪の毛よりも細い鍼を使い、お灸は毛の上に台座のよなもの(灸点紙)を置き、その上にもぐさを載せて火をつけます。なのでほんのりと温かい程度です。ほとんどの動物は嫌がることなく治療させてくれます。

一方、漢方薬は、草や木、動物、鉱物などの生薬を組み合わせて作られている治療薬です。症状や体質に合わせて処方します。漢方薬は効果がマイルドで安全というイメージがあるかもしれませんが、実は、即効性があるものもあれば、副作用があるものもあります。

鍼灸治療も漢方薬もこの病気ならこのツボ!とか、この漢方!というのがあるわけではなく、症状を聞いて、体を触ったり、舌や脈を診たりして使うツボや漢方薬を決めて治療していきます。

西洋医学、東洋医学どちらがいいというところではなく、動物たちに合った治療法を選ぶと過ごしていきたくないですね。

最後に故・温雪楓博士(香港連合中医学学院名誉会長)の言葉を紹介します。「病人はすでに病に苦しめられています。さらに苦しめるようなことをしてはなりません。患者さんがクリニックのドアを開けて帰るとき、笑顔で帰られるようであればなりません」